



研究所だより



残暑厳しき折、皆様方にはご健勝にてお過ごしのことと存じます。日頃は教育研究所の運営・活動にご支援、ご協力を賜り、心から感謝とお礼を申し上げます。

6月20日、町内中学生を対象に、「脳を鍛え 夢と希望をかなえよう」というタイトルで東北大学加齢医学研究所の松崎泰氏による教育講演会が行われました。この脳科学の講演は、中土佐検定が始まった当時から行っているものです。今回の講演では、読書についての話が多く、読書時間の多さと学力は一定時間まで関連していて、本を読む習慣が脳内の言語に関する領域を活性化し、そのことが情報伝達につながるという話がありました。全国学力学習状況調査の結果が公表されましたが、文章で書かれた調査問題を読み、問われていることを理解するためには、学校の学習だけではなく、日頃から書物や資料（表やグラフ等）に親しみ、読み取る力をつけていくことは必須だと感じました。読書の習慣をつけることは必ず力になると思います。

講演会の後、たくさんの生徒からの積極的な質問があり、自分事として講演の内容をとらえていることが伝わりました。その時に質問できなかった生徒が、後日質問を送った内容について松崎先生から回答をいただいています。例えば、「おすすめの勉強法はありますか」という質問に対しては、①何度か定期的に反復すること（繰り返し学習する。すでに覚えたことと関連づけながら覚えようとする）、②複雑な作業をして覚える（例えば見るだけでなく、見て書いて、口で唱えながら覚える、など）、③たくさん内容があるなどの理由で覚えるのに自信がなかったら、語呂合わせなど別の工夫も取り入れる、というように、他のたくさんの質問にも丁寧に回答をいただきました。脳科学に基づく考え方が生徒たちに伝わり、意欲にもつながっていくと感じたことでした。

初めて中土佐町に赴任された先生が授業を進める中で、生徒が数学の基本ができていると印象を持ち、その後、中土佐検定の取組の成果であると分かったと話しているということを聞きました。町の施策として10年以上続いてきた中土佐検定ですが、着々と成果が積み上がっています。

中土佐町教育研究所 所長 古谷智史

第1回 中土佐検定結果

令和7年度 第1回の中土佐検定結果（合格率は最終結果）

小学校 算数

学年	1年生	2年生 (15級)	3年生 (12級)	4年生 (9級)	5年生 (6級)	6年生 (3級)	町全体
受検者数		26	26	36	29	32	149
平均点		94.6	96.0	91.9	87.3	83.4	90.4
合格率(%)		100%	100%	100%	100%	97%	99%

中学校 英語

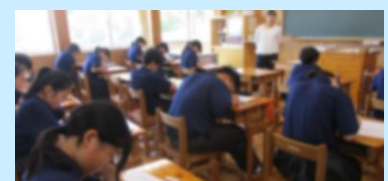
学年	1年生 (9級)	2年生 (6級)	3年生 (3級)	町全体
受検者数	23	29	40	92
平均点	74.6	77.7	81.3	78.5
合格率(%)	83%	83%	88%	85%



真剣に中土佐検定に取り組んでいる児童・生徒の様子

中学校 数学

学年	1年生 (9級)	2年生 (6級)	3年生 (3級)	町全体
受検者数	23	29	40	92
平均点	71.7	82.2	80.0	78.6
合格率(%)	83%	83%	88%	85%



第1回教育研究所運営委員会報告

本年度第1回の教育研究所運営委員会を6月2日に開催しました。本年度の研究所の活動方針や重点的な取組内容の説明後、学識経験者、保護者代表、校長会代表、教頭会代表のそれぞれの委員から研究所の運営や中土佐検定について、運営についてのご意見をいただきました。一部抜粋ですが下記のような意見交換がありましたので報告します。



【中土佐検定実施と基礎学力向上について】

- このようなすばらしい取組は近隣の市町村へもPRして町の成果として発信していくといい。再々テストまで取り組む児童生徒が、モチベーションを維持して取り組めるよう、試験の問題の内容を工夫することも一つの方法ではないか。
- 親としてもとてもありがたい。高校の合格率へ反映されているのも一因ではないか。
- 家庭でも学習への興味を持たせるのに苦労する。何かいい方法がないだろうか。
- 中土佐検定や教育研究所を知らない親も多いと思う。もっと広く認知してもらう取組をしたらいい。
- 長年の取組を続けていることが成果につながっている。
- ホームページに問題を載せるのもどうだろうか。
- タブレットに検定テキストの内容が入っていることについて、問題をリンクさせて、手軽に前学年の問題に戻れるようになど、仕組みがうまくできればさらに広く利用することができると思われる。
- 特別支援の子どもたちにとってICTは効果的なので活用を考えたらいい。

（教育委員会・研究所から）

- ICT機器（タブレット）の入れ替えがあり、今後より使いやすくなる。
- 保護者に対して、理解が進むように発信していく。
- タブレットによる検定は環境整備とともに活用の可能性を探っている。タブレットから検定テキストが見られるようにしている。前の学年の問題がみられるのはICTの強み。生かしていきたい。
- 学校の努力により、合格率も改善がみられる。児童生徒にとって、基礎学力向上にとって、よりよい検定を目指す。
- 脳科学の視点を生かし今後も取組を進める。

第1回 中土佐検定担当者会・教科担当者会報告

7月25日に中学校の教科担当者会、8月1日に小・中学校の第1回中土佐検定担当者会をそれぞれ開催しました。第1回の検定結果の報告のあと各校・各教科の取組状況の共有や検定の実施時期・内容等について意見をいただきました。

教科担当者会

数学、英語それぞれの教科担当者から積極的な意見を多くいただきました。解答の文字を丁寧に書くことの大切さや、採点基準についての学校の指導内容とのすり合わせによる変更について意見交換を行いました。両校とも、検定で数学の基礎計算の力がついてきているとのことでした。英語では、1年生の検定問題の内容について、学校（生徒）の学習状況に合うように一部変更することについて、具体的に方針が決まりました。

検定担当者会

本年度から、前年度まで小中別々に行っていた担当者会を小中合同で行うことにしました。中土佐町では、保小中連携教育を教育方針の一つの柱としていて、連携をしながら様々な取組を実施していることもあり、中土佐検定についても小中の連携で生かしてもらいたいからです。結果として、小中それぞれに参考になる取組があり、例えば、中学校の検定テキストを小学校でも見ておいて中学生の内容について知っておきたい。など具体的な意見が出ました。また、小6から中1になると合格率が減少傾向にあることについて、小学校の取組への質問、中学校は本試から逆算して計画的に取り組むことについて参考になる。合格にならない生徒への細かい評価。中学校では難しくなっても中学校の内容の検定を受けさせたい。小学校では検定への苦手意識をなくしてほしい。との中学校からの意見

検定問題の内容について、あまり簡単にしすぎると本当の力がついていかない。基礎学力をつけるための難易度を考えてほしいとの意見がありました。

この夏から、タブレット端末の入れ替えがあり、中土佐検定とのかかわりや家庭学習の活用なども話題になりました。

そのほかにも、多くの意見が出されました。小中合同で実施したことでより良い方向に向かっていると感じたところです。

教育委員会からは、脳科学の視点に基づく取り組みを理解いただき、基礎学力の定着、取り組み方の創意工夫、脳科学の視点から毎日コツコツ取り組むことの細切さを意識して今後も取り組みを続けてほしいとのコメントがありました。

多くの子どもたちがテキストを効果的に活用し検定に臨むことで、中土佐の子どもたちの基礎学力の定着につながるよう取り組んでいく必要性を感じたことでした。

各校の取組状況は表の通りです。



小学校（算数）

学校名	本年度の学校や家庭での取り組み
大野見小	<ul style="list-style-type: none"> • 毎日の帯タイムで取り組んでいる。 • 算数の授業でも復習で活用している。 • 検定前にはプレテストを行い、個々の状況を把握し、指導に役立てている。 • 家庭学習でも活用し、基礎・基本の定着につなげる。
上ノ加江小	<ul style="list-style-type: none"> • 水曜日5校時に「上小タイム」を設定し、全校で中土佐検定に取り組んでいる。 • 月曜日の掃除後の帯タイムに「ことばのきまり」の時間として全校で取り組んでいる。 • 検定前には、プレテスト A,B,C に繰り返し取り組みせ、定着を確認している。 • 検定前に家庭学習でもプレテスト A,B,C に繰り返し取り組みさせた。
久礼小	<ul style="list-style-type: none"> • 計算タイムでテキストに取り組んだ。特にプレテストは繰り返し取り組むことができた。 • 放課後の加力学習で取り組んだ。 • 1年生は、1学期は検定がなかったが、既習したページから取り組んだ。 • プレテストを中心に家庭学習で繰り返し取り組んだ。

中学校（数学）

学校名	本年度の学校や家庭での取り組み
大野見中	<ul style="list-style-type: none"> • 生徒が見通しを持って取り組むよう、プレテストから行い、できていない問題を次回のチャレンジタイムで集中的に学習している。 • 中土佐検定の問題を家庭学習などでも活用し、基礎・基本の定着につなげていく。
久礼中	<ul style="list-style-type: none"> • 4週間前より取り組み開始。終学活前の帯タイムで5分間、テキストの問題をノートに書いて学習するようにした。 • 1週間前からは朝の読書でも取り組む。 • 1週間前にプレテストを行う。 • プレテスト、本試験、再テスト後に80点未満の生徒は放課後学習を学年団教員で実施。 • 英語、数学については授業内でも演習や解説を行う。 • 長期休業中の課題として取り組ませる。

中学校（英語）

学校名	本年度の学校や家庭での取り組み
大野見中	<ul style="list-style-type: none"> • 生徒に見通しを持たせるようプレテストに挑戦したうえで、間違えた問題から自分の課題を発見し、苦手な分野のページに戻り、自主学習できるようにしている。学年内外を問わず、質問し教え合う場面がある。 • 中土佐検定の問題を家庭学習などでも活用し、基礎・基本の定着につなげていく。
久礼中	<ul style="list-style-type: none"> ※取組内容は数学と同様につき省略 • 指定はしていないが久礼ノートに自主的にテスト範囲を勉強している。 • 定期的に宿題にする。

町内の授業研究会について

本年度も町内各校の公開授業研究会に参加させていただき、「研究所だより」の中で授業の様子を掲載させていただきたいと思います。スペースの都合で、すべて掲載できませんでしたのでお許しください。

☆6月9日（月）大野見小学校校内研修

授業者：足達 瑛莉香 教諭

単元名：国語科 5年「書き手の意図を考えて新聞記事を読み比べよう」

6年「説得のくふうを考えてインターネットの投稿を読み比べよう」

感想：5年生も6年生も2名という少人数ですが、2人で考え方を共有しながら自分の考えをまとめていました。現状の子どもたちの力をきちんと把握し、単元でつきたい力をきちんと授業者が把握して単元のゴールへ導いていくそんな授業だったと思います。新聞記事や投稿文の内容や工夫を読み比べる力が児童にきちんとついていることがベースになっていて、この学年になるまでの学習がきちんとできていると感じました。学校全体で国語の複式授業を研究されていて、授業の流れも定着していて、準備物もたくさん用意されていて、前時までの積み上げも含めてすばらしいと思いました。先生の介入がタイミングよく、後方支援として、常に気配りができていると思います。ICTも自然に取り入れられ、6年生のタイピングもとても速いと思いました。大野見小学校では、小中学校で連携して様々な教育活動を展開しています。この授業でも、中学校の先生方がたくさん授業と研究協議に参加していました。今日の授業が中学校の学習につながっていくのが楽しみです。（古谷）



久礼中学校の授業の様子

☆6月12日（木）久礼中学校授業改善プラン

授業者：廣瀬 一輝 教諭

単元名：数学科 2年「連立方程式」

感想：4月からの授業の積み重ねで、学びのスタイルが定着してきていると感じました。「みな活躍」のボードでそれぞれの意思表示や意欲付けができていました。いい試みだと思います。つまりがある生徒に対して、準備と手立てがきちんとできていました。先生が作成した動画の活用が効果的でした。グループ共有の場面が多くあり、相互に遠慮なく自然に教え合っている姿が印象的でした。生徒が前に出て考えを発表する場面がありました。個別にじっくり考える時間がとられていて、思考する場面が多くありました。たとえ解けなくても、この考える活動や時間が大切で、共有の場面でわかった時の理解が深まると思います。確認を口頭でさせることで言語化を大切にしていることが伝わってきました。単元の流れに沿ってポイントを押さえたシンプルでいい授業でした。あたたかな声かけが多く、生徒全員が最後まで集中していて、生徒たちの分かろうとする気持ちに沿った授業だったと思います。（古谷）

☆6月12日（木）久礼小学校校内研修

授業者：高野 豊行 教諭

単元名：How many? (Let's Try! Unit 3)

感想：4月から外国語活動の授業が始まってまだ2ヶ月だというのに、子ども達が英語にとっても慣れていることがよく分かりました。本時のメインとなるHow many strokes? ~strokes. をリズムよく言い慣れていた。リズムに乗せて言い慣れるという手法はとても効果的だったと思いました。先生が英語を一方的に教えるのではなく、子ども達の「ヒントが欲しい時は英語でどうやって言うんだろう」というリアルタイムの思いに沿ってHint, please.を教えていたので、英語の教え方としてとても良かったのではないかと思います。Activityでは、子ども達のやり取りの様子をとても注意深く観察し、中間評価の時間に良い姿を紹介することができていました。外国語活動の授業に限らず、普段の授業、学級経営の時から子ども達のことをよく見ていることが分かりました。また、ALTとの連携がしっかり取れているなど思いました。子ども達は英語を使っの活動にすばやく取り掛かっており、活動までの英語の慣れ親しみが十分にできていることが分かりました。（渡部）



上ノ加江小学校の授業の様子

☆6月26日（木）上ノ加江小学校校内研修

授業者：中尾 詠子 教諭

単元名：算数科 5年「小数の倍」、6年「分数の倍」

感想：上ノ加江小学校では低学年の頃から複式学級の利点を活かした学びのスタイルが確立されています。この授業でも子ども達同士で学習リーダーを中心に学び合うことができていました。児童は主体的に学ぶことができており、「どっちやと思う？」と尋ねたり、「どういうことか分かった？」と問いかけたりして、自分達で確認しながら学習を進めることができていました。5年生が問題を解いていて困った時に6年生にヘルプを出し、すぐに6年生が自分なりの考えを5年生に伝える場面がありました。複式学級ならではの良さを活かしていると思いました。先生が指名して発表させるという形式ではなく、与えられた課題に対して子ども達同士で互いに意見を出し合い、学び合う姿が多くみられました。5年生も6年生も数直線の図の作成を全員が正確にできていました。日頃の授業から数直線の図を活用し、子ども達が自分で使えるツールになっていると思いました。1時間の授業を子ども達が主体的に学び進めている中で、先生が様子を見ながら的確な指導や支援をされていて、複式学級の授業の良さを改めて感じました。（渡部）



研究所便り 令和7年度 第2号

発行 中土佐町教育研究所

〒789-1301 高知県高岡郡中土佐町久礼 6551-1

TEL 0889-52-2250 FAX 0889-52-2643 発行日 令和7年8月22日